

|                                                                                                     |         |     |                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-----|----------------|
| 5. イチゴ高設栽培における果梗折れ対策（技術）                                                                            |         |     |                |
| <p>[要約]</p> <p><u>イチゴの高設栽培</u>で発生する<u>果梗折れ</u>を減少させるには、直径 6 ～10cm 程度の円筒状の<u>果房支持台</u>を設置するのが良い。</p> |         |     |                |
| 研究室名                                                                                                | 野菜・花研究室 | 連絡先 | 0869- 55- 0277 |

## [背景・ねらい]

高設栽培において、果実収穫期に果梗が折れる、または傷む症状が現れることがあり、果実品質及び収量を低下させる原因となる。

そこで、果房支持台の設置による、果梗折れ防止対策を検討する。

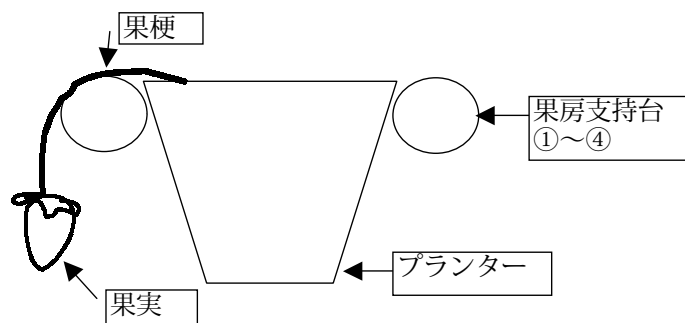
## [成果の内容・特徴]

1. 直径 6 ～10cm の円筒状の支持台をプランター上面の横に並べた。（図 1）
2. 試験区として、①ポリダクトにモミガラを入れたクッション（直径 10cm）②ビニル等の芯材（紙製：直径 7.5cm）③ビニル等の芯材（紙製：直径 6.5cm）④暗きょ管（プラスチック：直径 6 cm）⑤無処理とした。
3. 無処理区における果梗折れの発生株率は、‘さちのか’で 50%、‘とよのか’で 9%であった。果房支持台を設置した場合、果梗折れの発生は両品種とも 0 ～ 5%に低下した。（図 2）

以上のように、直径 6 ～10cm 程度の円筒状の果房支持台の設置により、果梗折れの発生を減少させることができる。

## [成果の活用面・留意点]

1. 果房支持台はマルチング前に設置する。
2. 資材としては価格、作業性、入手の難易性を考慮して検討する必要がある。
3. 果房支持台の上面がプランター上面と同じ高さになるように設置する。



- ①モミガラクッション：直径10cm、折り径15cm、長さ1.5mのポリダクトにモミガラを入れてプランター上面の横に並べた。  
 ②紙管中：直径7.5cmのビニル等の芯材（紙製）  
 ③紙管小：直径6.5cmのビニル等の芯材（紙製）  
 ④暗きよ管：直径6cm（プラスチック）  
 ⑤無処理

図1 果房支持台の種類及び設置方法模式図

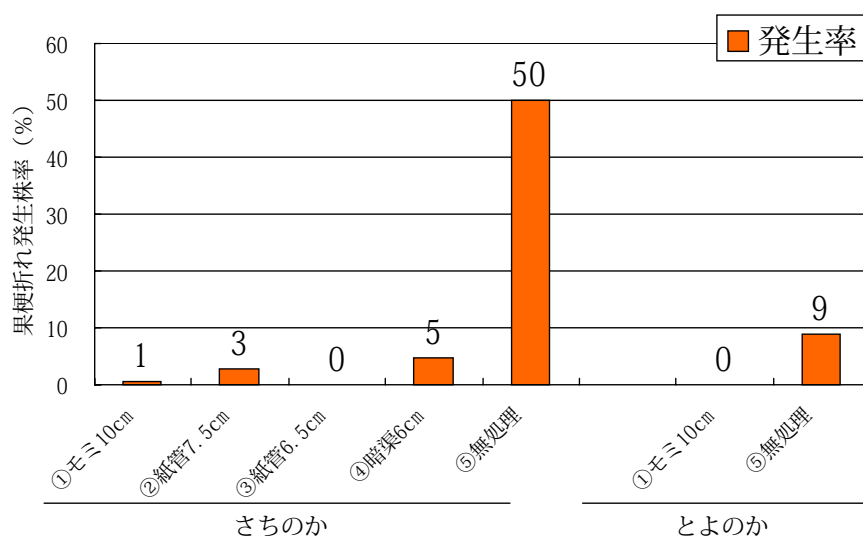


図2 果房支持台が果梗折れに及ぼす影響（平13. 3. 8）

## [その他]

試験研究課題・事業名：軽量培地を用いた簡易な高設栽培方式の確立

予算区分：受託（超省力園芸）

研究期間：平成9～12年度

関連情報等：平成9年度試験研究主要成果：イチゴの簡易高設栽培装置

平成9年度試験研究主要成果：イチゴの簡易高設栽培による省力的栽培法

平成11年度試験研究主要成果：イチゴの子苗定植法における花芽分化促進技術

平成11年度試験研究主要成果：イチゴ高設栽培における簡易培地加温法

平成12年度試験研究主要成果：イチゴ子苗定植における花芽分化促進のための断根処理